

とりみやま 県営住宅鳥見山団地建設工事

受賞機関 福島県

はじめに

喜多方市は、江戸時代には若松城下と米沢を結ぶ街道の町として栄え、現在でも2,600棟を超える蔵が建ち並ぶ「くらのまち」として知られている。

当団地は、喜多方市の北部に位置しており、松山・岩月第二土地区画整理事業地内で、中心市街地に近く、住環境が整備された地区である。

21世紀都市居住緊急促進事業により、昨今の社会問題（環境・資源等）に対処しつつ、21世紀にふさわしいゆとりある生活空間の創出を図るため、公共住宅のローコスト化・コストプランニングに関する設計プロポーザル競技を実施するなど、今後の福島県における公共住宅のモデルとなるよう標準化を目指した団地である。

事業概要

所在地：福島県喜多方市松山町鳥見山内地内

敷地面積：2,790m²

事業期間：平成11年度～13年度

総事業費：約5億円

整備概要：鉄筋コンクリート造3階建て

・2LDK 8戸

・3LDK 16戸 計24戸

事業の特徴

当団地は、建築物の長寿命化を目指しSI（スケルトン・インフィル）住宅を採用した。躯体（スケルトン）部分は、厚25cm～30cmの板状の壁柱と床梁による厚肉床壁構造で、居住・設備・アプローチ（インフィル）部分を各々独立させ、間取りの可変性や

設備機器等の保守・修繕等を容易にした。構造体を単純化しており、柱や梁型がないため型枠手間が省け、建設（イニシャル）コストの低減や外断熱等の採用によるライフサイクルコスト（LCC）の低減にも貢献している。また、梁をなくすことで、入居者に対し十分な採光を確保でき、改修時の自由度の拡大に繋がっている。

福島県では、

平成6年度から「高齢者向け公共賃貸住宅整備計画」により接地階における床段差の解消や高齢者等の身体機能の低下に配慮した仕様にするなどの取り組みをしていることから、1階の8戸には玄関にスライドドアを採用し、居室の段差解消や手摺りの設置、緊急用の呼出釦を設置するなどの仕様としている。

また、エレベーターを設置することにより、2～3階でもバリアフリーな住戸供給を可能にしている。

冬季には積雪が2mを超える寒冷地に位置することから、入居者の団欒や集会に利用できるよう共用のエントランスホールを設置し、地域のコミュニティの醸成を図っている。

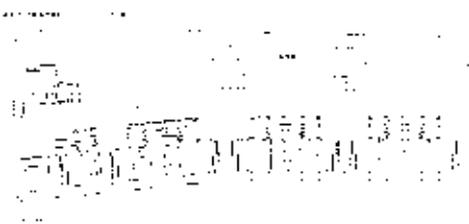
当団地の仕様は、本県の寒冷地以外の一般地域にも適用できるよう今後調整し、標準化を目指している。



北側外観
（チャコールグレーの部分はエレベーター）



居室
（壁際の家具は可動で、間仕切としても用いることができる）



屋上から望む藤枝駅南口広場